



KIGUMI KOMUTEN

Made in Aomori House

08

青森ヒバをふんだん使った “帰ってきたくなる”オフィス

株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史

text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa



壁一面がガラス窓になっている、開放感いっぱいのフリーラウンジ・カフェ。使われている木材はすべて青森ヒバ。



写真提供/木組工務店

働く環境にこそ ストレスを和らげてくれる木を

建物の正面全体に青森ヒバの板が張られた「シェアオフィスBLUE」は、大小12室のオフィスルームとミーティングルーム、キッチン付きフリーラウンジ・カフェからなります。外観が物語るように、建築にはヒバがふんだんに使われています。まず、玄関の一角にヒバのチップが敷かれており、訪れる人をヒバ特有の落ち着く香りで迎えます。建物の中心部にあるフリーラウンジ・カフェは、フローリングから柱、梁、カウンター、キッチン棚まですべてヒバ。樹齢250年以上の立派なヒバの丸太テーブルと椅子も置かれており、見た目にも香りにも癒される空間です。さらに、トイレの壁にまでヒバの板が張られているため、建物のどこにいてもいい香りに包まれます。

フリーラウンジ・カフェと20名規模のオフィスルームには、ヒバの丸太の柱がシンボリックにそびえています。これらは、BLUEのオーナーであり材株式会社（以下「材」）の代表浄法寺朝生さんと、建築を手がけた木組工務店の代表新山聖将さんが、ともに下北半島へ出向き買付したものです。殺風景になりがちなオフィス空間でも、この柱があることでやわらかい印象になっています。新山さんはこう説明します。

「ヒバの柱は設計上なくすこともできましたが、今回あえて入れました。木にはリラックス効果があるので、よく居住スペースで求められますが、オフィスにあれば働く人のストレスを和らげてくれます。より気持ちよく仕事ができるんじゃないかと思います」

節のあるヒバの板を活かし香りの効果を楽しむ

「木も人も、それぞれ個性やバックグラウンドを持っていて、組み合わせることで最高のものになる」

材の浄法寺さんは、社名の由来をこう話します。曰く、「木も人も、癖や欠点を活かすことが大事」。BLUEもそうした考えのもと建築したといえます。

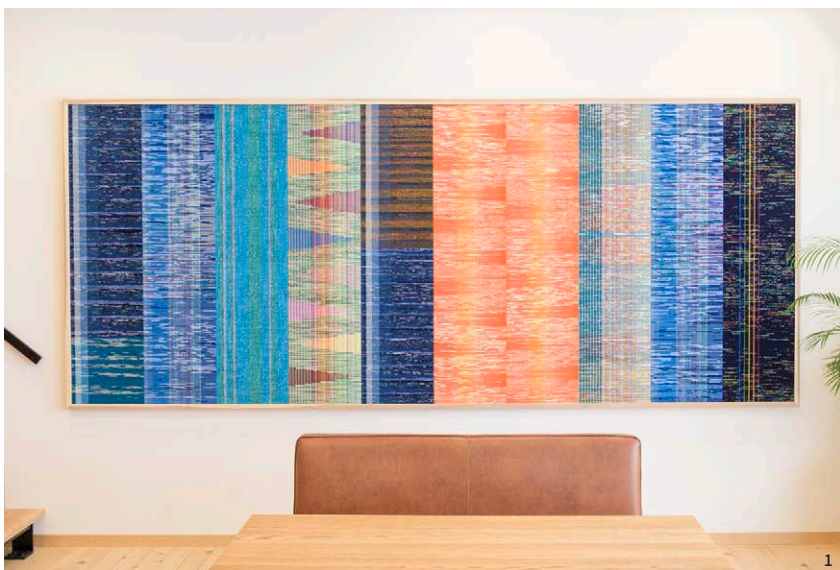
「ヒバの板のなかでも、節のあるものを活かすことで、『帰りたくなるオフィス』を目指しました。節がある板は、多少曲がったり割れたりすることがあるので、普通はクレームを恐れて避けます。けれど、そのぶん価格が安くなるし、少しくらい曲がったり割れても構いません。それに、節は油分が多くて香りが強いんです。ヒバのいい香りが嗅覚に働きかけて、『またここに来たい』と思わせられます」

実際BLUEには、「ただいま」と言いながら扉を開けたくなるような居心地のよさがあります。これもヒバの香りの効果でしょう。

防カビ、防菌、消臭機能があり、強度も高い青森ヒバを、浄法寺さんは「世界で一番すごい木」と讃えます。BLUEの建築にヒバを多用したのは、ヒバの産業を守りたいという思いもあったから。さらに現在、海外にヒバを販売する事業にもチャレンジしているそうです。

BLUEの特徴としてもうひとつ、内装にアップサイクルをした青森らしいアイテムを取り入れていることも挙げられます。エントランスには津軽びいどろの廃材を用いた格子窓がはめられ、ラウンジには不要になった布を織った南部裂織の作品が飾られています。すべてのオフィスルームには、建築段階で出た端材を組み合わせたアートも用意されています。

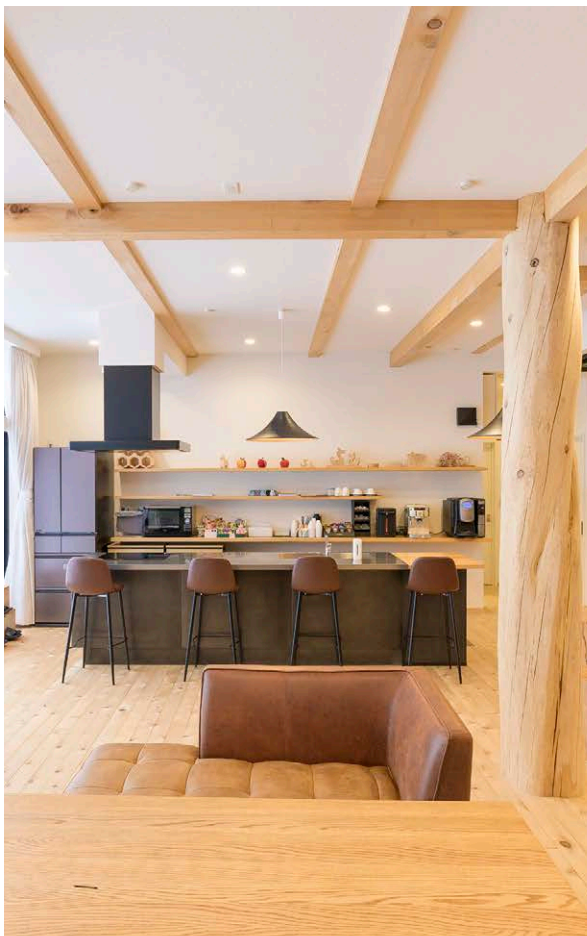
これまでにない試みにあふれたBLUE。入居者たちからの評判もよく、オフィス空間における新しいモデルとなりそうです。



1. フリーラウンジ・カフェに踏み入れると目に飛び込んでくる南部裂織の大作。2. 四季をイメージした津軽びいどろの窓。3. 建築現場からのアイデアで生まれた端材のアート。4. 2階には大小のオフィスルームが並ぶ。5. オフィスルームにはヒバの机が設置されている。



最も大きいオフィスルームには、立派なヒバの柱と一枚板のテーブルが。無塗装なので触り心地がよく、使い込むほどに経年変化も楽しめる。



フリーラウンジ・カフェのキッチン。
棚板はヒバでできており、ペンダントライトは青森の工芸品であるブナコ。

DATA | 物件概要

施設名：シェアオフィス BLUE

構造及び階数：木造2階建て

建築面積：476.98㎡

延床面積：834.72㎡

完成年月日：2024年4月26日

建築主：材株式会社

設計者：アップルアーキテクト株式会社
SOW設計工房

施工者：株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

内装材：青森ヒバ、スギ

外装材：一部に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832

Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548

kigumi@kigumi-komuten.co.jp

<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



Made in Aomori House

09

ねぶた祭と青森ヒバを 全身で感じる コンセプトサウナ

株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史
text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

KIGUMI KOMUTEN

ねぶたは、ねぶた名人がこのサウナのために制作。男湯と女湯それぞれ微妙に造作が異なる。

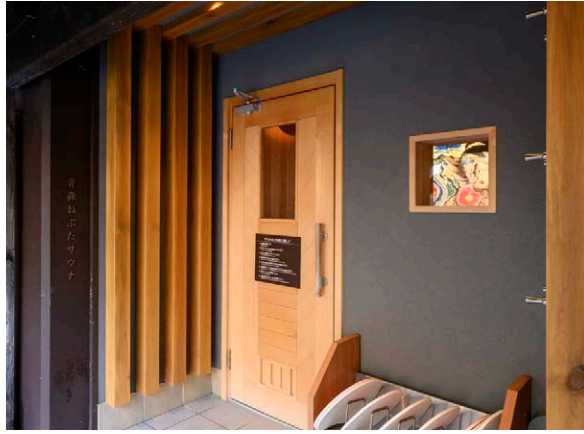
サウナに適したリラックス効果と 防腐、抗菌、抗カビ作用

青森の文化を体感できる宿「星野リゾート 青森屋」に、コンセプトサウナ「青森ねぶたサウナ」が誕生しました。その名のとおり、ねぶた祭を全身で感じられます。

サウナ室は青森ヒバでつくられており、無垢の白木が見た目にも肌にも心地よく、踏み入れた瞬間から落ち着く香りに包まれます。室内には、ねぶた祭のおはやしが流れ、七代目ねぶた名人の竹浪比呂央氏が手がけた迫力

満点のねぶたが構えています。ヒバの板で組まれた天井は、躍動感いっぱいにウェーブしており、15分に1度、おはやしの盛り上がりとともにサウナストーンに水がかかるオートロウリュが作動します。ロウリュで室内に蒸気が行き渡ると、ヒバがいつそう香り立ち、サウナの熱気がまるでねぶた祭の熱気のように感じられてきます。

サウナストーンは、よく見ると金魚ねぶたや武者の形をしたものがあります。サウナヒーターの囲いは、山車の持ち手を彷彿とさせる紅白の柵。サウナマットはねぶたの台座に描かれる牡丹の花をモチーフにしており、12分計は跳ね回るデザインになっているなど、まさにねぶた祭づくし。青森ねぶたサウナはサウナ通のなか



サウナは露天風呂の一角にある。扉を開ければねぶたの世界。



秒針に跳人があしらわれたオリジナル12分計。跳人と一緒に汗をかこう。



サウナの温度は通常90度前後。温湿度計には、ねぶたのモチーフである龍王のいさましい顔が。



サウナの入り口にある貸サウナマット。山車の下部に描かれる牡丹の花があしらわれている。



サウナスヒーターをのそぎこんで、金魚ねぶたや武者のストーンを探そう。

DATA | 物件概要

施設名：青森ねぶたサウナ
 構成及び階数：鉄筋コンクリート1階建て
 建築面積：44.42㎡
 延床面積：44.42㎡
 完成年月日：2024年4月10日

建築主：株式会社 三沢奥入瀬観光開発
 設計者：岩田尚樹建築研究所
 施工者：株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

内装材：青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
 Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
 kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



露天風呂でも、池の対岸に四季折々のねぶたを望める。



でも評価が高く、いま行くべきサウナ施設として「SAUNACHELIN (サウナシュラン) 2024」にも選ばれました。

「ヒバのはめ板は、サウナの環境に耐えられるように、とくに良質なものを使用しています」と、設計と施工を行なった木組工務店の新山聖将さんは言います。雪国の厳しい環境でゆっくり育つ青森のヒバは、木目が細かく強度があり、腐りにくく、抗菌、抗カビ、抗虫作用にも優れています。さらに香りにはリラックス効果もあることから、ヒバはサウナにぴったりの材といえます。サウナを体験した青森屋の宿泊客は、すぐにまた再訪したくなるでしょう。

地域密着型の施設だからこそ 建築に県産材を

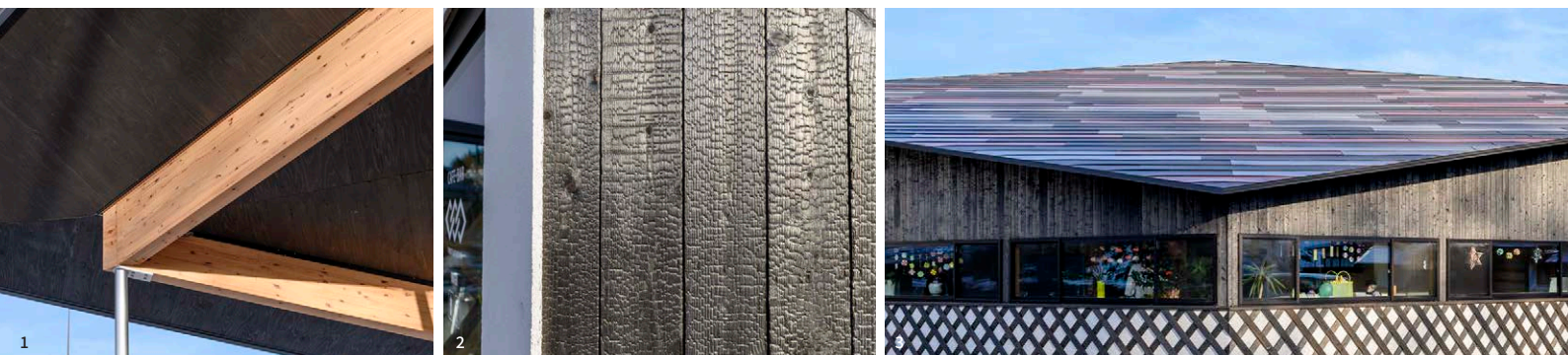
株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史

text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

駅から近く、隣に温泉もあるサードプレイスミサワ。
ロゴは屋根の菱形をかたどったもの。サードプレイスの3と、三沢の3にちなんで3つの菱形が並ぶ。

KIGUMI KOMUTEN



1. 斜めに大きく突き出た屋根を支えるアカマツの梁。2. 塗装では出せない濃淡が味わい深い焼スギ。3. 屋根の模様は南部裂織を彷彿とさせる。

意匠を凝らした設計を 職人の技術で実現

三沢駅から徒歩3分ほどの場所にオープンした「サードプレイスマサワ」は、市民にとって自宅と職場に次ぐ第三の居場所となるような交流施設です。カフェ・バー、イベントスペース、高齢者デイサービスの3つのエリアが仕切りなく続いており、多世代がさまざまな目的で日々利用しています。

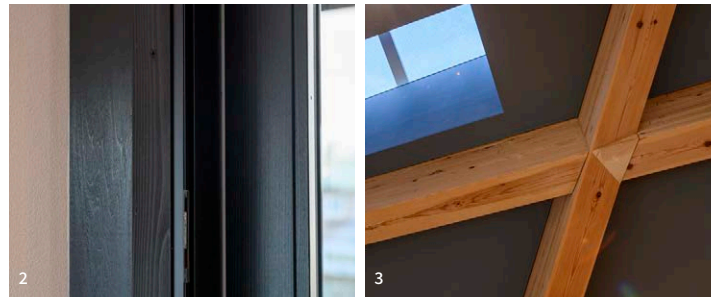
木造平家の建物は、南部菱刺しをモチーフにした菱形の屋根が、斜めに4つ連なるユニークな設計です。屋根は異なる色の板金がランダムに配置され、南部裂織のような模様をしています。外壁は耐久性を高めるため、県産のスギを使った焼スギが貼られており、白壁部分とのコントラストが目を引きまします。

菱形をベースにしている構造上、より強度が求められる梁は、油分が多い県産のカラマツの集成材を使用。菱形の角度に合わせて接合する必要があるため、建築の際は苦労したと、施工した「木組工務店」の代表新山聖将さんは振り返ります。このように凝った設計を形にできたのは、職人の方たちの技術と努力の賜物です。また、窓は十和田市にある「日本の窓 (P36)」に依頼し、県産材を用いたオリジナルの木製サッシを制作。木製サッシは断熱性・遮音性にも優れています。

新山さんは、普段から建築に県産材を取り入れるよう意識しているといいます。

「建物に使われる木が県産かどうかを気にするお客様は、まだあまりいません。いまはこちらから提案したり、さりげなく取り入れたりしています。お客様には、建物を使うなかで県産材の存在に気づいてもらえるとうれしいです」

地域に密着した場所だからこそ、建築材料も地元のもの。サードプレイスマサワの建物には、そんな思いも込められています。



1. 昼はカフェとして、夜はレコードバーとして営業。奥にはイベントスペースが。
2. 窓は断熱性・遮音性にすぐれた木製サッシ。3. 大工の方々の苦労が垣間見られる梁の接合部。

DATA | 物件概要

施設名：サードプレイスマサワ
構造及び階数：木造平屋建て
建築面積：391.99㎡
延床面積：324.94㎡
完成年月日：2024年3月14日

建築主：株式会社 池田介護研究所
設計者：筒井紀博空間工房
施工者：株式会社 木組工務店

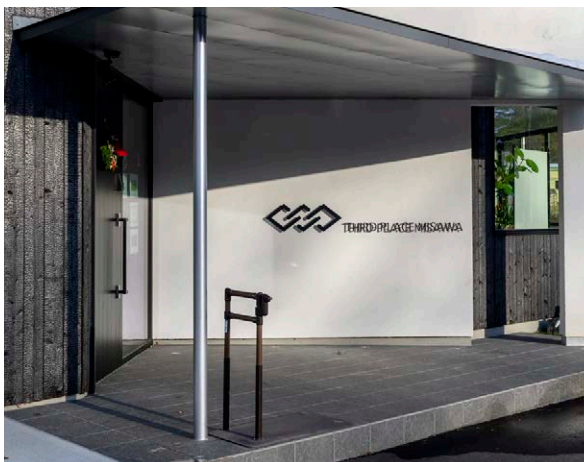
【県産材の使用状況】

構造材：梁にカラマツ
外装材：外壁に焼スギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



子どもたちの記憶に刻まれる 県産材のぬくもり

株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史
text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

青森らしさを表現した子どもの居場所づくり

2024年4月に三沢市でスタートした児童施設「あご〜」は、子どもたちが生き抜く力を育むための居場所です。日本財団が全国に展開する「子ども第三の居場所」事業によるもので、青森では2箇所目になります。

建物は、古い木造の二階建てをフルリノベーションしており、見えない構造部の一部に県産材が使われています。内装は、総括マネージャーを務める社会福祉法人若竹会の土屋智裕さんが描いたイメージを形にしたもので、こちらも県産材が取り入れられています。「遊び心があった、子どもたちがまた行きたいと思える場所に仕上がった」と土屋さん。「海の図書館」と名づけられた読書室では、中央の水槽を囲むように4つのオリジナルベンチが並び、その座面と背もたれに青森ヒバの板が張られています。子どもたちがリラックして本に没頭している姿を見ると、土屋さんは「こだわってよかった」と感じる

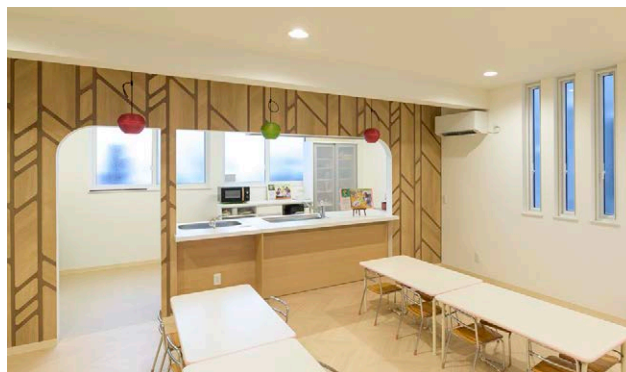
そう。ヒバの香りや手触りも、子どもの心により影響を与えてくれるはず。

また、キッズスタジオにあるウォールクライミングの壁は、県産スギの合板でできています。吹き抜けに張られたアスレチックネットのステップは、県産アカマツの角材を組んだもの。森をイメージしたというリビングの照明は、青森のブナから生まれた工芸品「ブナコ」のランプです。

自衛隊の基地などがある三沢市は、転勤により数年で他県に引っ越す家庭が多い街。あご〜で県産材を取り入れている理由には、「子どもたちが引っ越しても、青森のことを記憶に留めてもらいたい」という思いがあるからだとか。子どもたち原体験に、青森の木のぬくもりが刻まれています。



地域のコミュニティスペースとしても機能するラウンジ。



子どもたちが炊事を学び、食事をするキッチンとリビング。

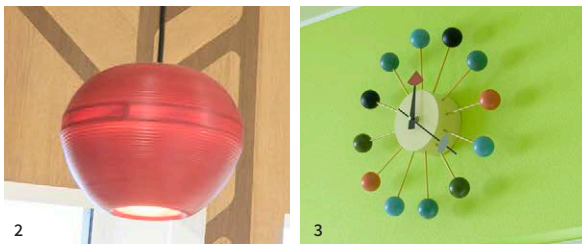


KIGUMI KOMUTEN

絵本を通じた子育てをモットーにしている土屋さんが、もっともこだわった部屋「海の図書館」。



1



2

3



4

1. 吹き抜けもアスレチックネットで子供たちの遊び場に。
2. かわいらしいリンゴのデザインのプランコ。3. 壁時計にも遊び心が表れている。
4. 思いっきり体を動かせるウォールクライミング。

DATA | 物件概要

施設名：みんなのいばしょ あご〜る
 構造及び階数：木造2階建て
 建築面積：175.42㎡
 延床面積：345.20㎡
 完成年月日：2024年4月10日

建築主：社会福祉法人若竹会
 設計者：有限会社 高村設計
 施工者：株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

構造材：柱材に一部スギ
 内装材：一部アカマツ、家具に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
 Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
 kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>

